

脳卒中 /TIA の 医療に 関する アンケート 調査 （ご協力のお願い）

一過性脳虚血発作（TIA）や軽症脳卒中は、48 時間以内に大きな脳卒中を起こす可能性の高い「前触れ発作」ともいわれ、早期の適切な対応が求められます。症状が軽微であるだけに、患者は身近な医療・介護職種に相談することもあり、医療・介護専門職種の初期対応力と地域の連携医療が重要となる緊急症です。

神奈川脳神経科医会では、よりよい軽症脳卒中/TIA の初療体制構築を図ることを目的として、県下で就業されている医療・介護専門職種の皆様を対象に脳卒中/TIA に関する知識の実態（ナレッジギャップ）を明らかにするアンケート調査を行うことといたしました。アンケートは 4～5 分程度で回答できる簡易な内容で、回答者の個人情報やメールアドレスが送信されることもありませんので、ぜひ下記 URL または QR コードにアクセスし、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

尚、アンケート調査は研修会や自己学習ツール等による学習の前と後の 2 回を予定しております。2 回目の調査の段階で、研修会の開催、自己学習ツールの制作・配布を通じて研修の機会を設け、今後各職種の皆様の研修にお役立ていただき、適切な医療連携につなげていきたいと考えております。今後の活動にも是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

令和 8 年 8 月 1 日

神奈川脳神経科医会
会長 島 浩史

アンケートアドレス、QR コード

<https://forms.gle/YCpDAF82fsRc2D7KA>



【研究の意義】軽症脳卒中や TIA は発症後 48 時間以内に脳梗塞に移行する可能性が高く、脳卒中の前触れ発作として対応する必要がある。一方、症状が軽微なため、患者は身に起きた異常を脳卒中であると気づかないため、身近な医療関係専門職が相談を受ける場合もあり、すべての医療・介護専門職が緊急性の的確な判断と専門医療機関への適宜適切な紹介の知識を持つことが重要である。そこで、神奈川県で就業している医療・介護専門職間の脳卒中・TIA に関する知識の実態を明らかにし、今後の啓発活動につなげたい。

【目的】神奈川県下の医療介護専門職を対象に ACVS に関する知識を調査し、職種間のナレッジギャップを明らかにし、ギャップ解消の方策を連携ツールの形で提供し、連携強化に供する。

【対象】ACVS 多職種会議を通じて、各団体所属の会員に回答いただく

- ◆ アンケート対象職種：医師、看護師、薬剤師、放射線・臨床検査技師、リハ（PT・OT・ST）、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員（ケアマネジャー）、介護ヘルパーの 9 職種を対象とする（ACVS の初療を担う可能性のある県下すべての医療・介護職）
- ◆ 依頼方法：神奈川県医師会脳神経科医会、神奈川県下の医療・介護職種の職能団体等にお願ひし、所属会員にアンケート調査（Google form）への参加をメール等にて促していただく。
- ◆ 予定回答者数：各職種 100-300 名の回答（計 1000 例以上）を予定する。

【方法】Google form による無記名アンケート（全体で 4-5 分で回答できる容量）

- ◆ データ収集項目：
 1. ベースライン特性：年齢、性別、職種、経験年数、卒後年数、専門とする診療科・所属診療科等、仕事の場所
 2. 知識、経験：脳卒中・TIA 発症を疑って自ら緊急搬送依頼した経験の有無、ACVS 対応方法、ACVS を考えるべき症状の知識、ACT-FAST の知識、BE-FAST の意味、高リスク項目の知識、t PA 静注に関する時間枠の知識、血管内治療の時間枠の知識、非特異的症状（めまいのみ等）の場合の対応、突発発症の問診の知識、潜在性心房細動の評価方法の知識、後方連携の知識、継続的未病対策、リスク管理の知識
- ◆ データ収集期間：2026 年 8 月～9 月末
- ◆ 分析方法：多変量解析
- ◆ 倫理的配慮：回答者の個人情報やメールアドレスの取得はない。回答後の取り消しはできない。また本研究は聖マリアンナ医科大学生命倫理委員会（臨床試験部会）の承認（第 7166 号）を得ている。

【結果の公表】2027 年 3 月 脳卒中学会報告、2028 年論文文化完了